日野市住宅マスタープラン（素案）に対する意見と市の対応

【計画内容に関するご意見】

第4回住宅マスタープラン改訂検討委員会のご指摘を反映した素案について、
2月2日～23日に実施したパブリックコメントと合わせ、各委員からのご意見、東京都協議の対応について、以下のとおりまとめる。

日野市住宅マスタープラン（素案）に対するご意見の要旨と市の対応

番号	項目	頁	ご意見の要旨	意見者	市の対応
1	基本理念： 住宅・住環境に関する諸状況	25	④の3ポツ目、 コミュニティの重要性の再認識（血縁・地縁→無縁社会）とあるが、 重要性を認識した結果が無縁社会なのか？と 誤解を与え得るので表現を整理したほうがよい。	委員	対応：修正する。 理由：指摘のとおり 「○阪神淡路及び東日本大震災をきっかけとした安全・安心の追及 ○阪神淡路及び東日本大震災をきっかけとしたコミュニティの重要性の再認識（無縁社会から多様な縁でつながる社会へ）」
2	取組み1-3： 耐震やバリアフリー改修など、既存住宅ストック改修の推進	31	日野市は昭和56年以前に建築された木造住宅について耐震診断を進めているが、近年は平成12年以前に建築された木造住宅の耐震化を支援している自治体が増えている。日野市においても耐震化支援の対象を拡大すべきではないか。	市民	対応：素案のとおりとする。 理由：まずは昭和56年以前の木造住宅の耐震化を進める。平成12年以前の耐震化については、今後の耐震化率の推移や国や都、近隣市の動向も踏まえ、必要に応じ検討を行う。
3	取組み2-3： 住工共存、職住近接のまちづくり	37	3つ目○、前回の会議で委員長から指摘された表現から変わっていない。わかりやすい表現に変更してほしい。	委員	対応：修正する。 理由：取組み4-1の2つ目○のみ修正し、2-3に反映していなかった。
4	取組み5-2： 地域に住み続けられる居住支援、住替えの支援	51	地域包括ケアの考えが示されているが、 住宅困窮者に対する住まいの確保が前提となる 視点・記述が少ないと感じる。	委員	対応：修正する。 理由：指摘のとおり →「・・・連携させて提供するとともに、その前提である生活の基盤となる住宅の確保等への支援も図っていきます。」

番号	項目	頁	ご意見の要旨	意見者	市の対応
5	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52	取組み5-2の2つ目○、取組み5-3の3つ目○、介護・医療依存度が高い方への住み替え誘導を謳っており、その市民向けには適した施策だが、そのような市民向けのみを謳うことはいかかなものかと考える。在宅＝元々の自宅という観点なのか。	委員	対応：修正する。(5-1の修正) 住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくためには、自宅等で住み続けられなくなる(介護医療が必要とされる)方に対する施策の方針を示すことが重要と考える。 介護や医療が不要な高齢者に対しても、住み慣れた地域で生活し看取られる暮らしが実現できるよう、5-1で取組みの方針を示している。 在宅は、自宅が基本となると思いますが、サ付き等の高齢者向け住宅も含まれるものと考えている。 5-1の表現では「・・住み慣れた地域・自宅で・・」の表現が誤解を与えうるので、表現を改める。
6	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52	3つ目○、有料老人ホームの届出及びサービス付き高齢者向け住宅の登録は都道府県の事務となっている中、「整備については地域密着型特定施設入居者生活介護の指定を受ける住宅に限る」とあるが、「限る」という表現は、許可権限を市が持っているように誤解を与えるため不適切である。	東京都福祉保健局	対応：修正する。 理由：より良いサービスの提供ができるものとした意図、地域密着型特定施設入居者生活介護の指定を受けた住宅のみを対象とした意図ではないこと、許可権限に言及する意図ではないため →取組み5-3を修正する。
7	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52	3つ目○、が不可解である。 サ付きに入居者の心身の状態変化に沿ったサービスの提供が求められており、要介護者のみが対象のサ付きの整備が推進されている。 高齢者の心身の状態変化は、医療・介護が必要になった場合だけなのか。	委員	対応：修正する。 理由：高齢者に配慮した住宅があいまいであるため。 また文章上のわかりにくさがあるため。 ※ここで意図した高齢者に配慮した住宅とは、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅だけでなく、バリアフリー化等が整備された一般住宅等も含むものとして表現した。 また、心身の状態変化は、医療・介護が必要になった場合だけではないと考えている。
8	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52			また、自宅を始め地域にある一般の住宅の他、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、特養など、高齢者の「施設」と住宅の捉え方があいまいで、記載していたため、5-3では2つに分けて整理する。 1) 自宅、一般の住宅 2) サービス付き高齢者向け住宅

番号	項目	頁	ご意見の要旨	意見者	市の対応
9	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52	3つ目○、 地域密着型特定施設入居者介護は制度導入から間もなく10年になるが、東京都においてはほとんど普及していない。 その状況で普及しようとするには今後の需要予測など何らかの根拠があるのか。	委員	対応：修正する。 理由：今後の需要予測等の根拠があるわけではないが、より良いサービスの提供ができるものとして意図で記載したものであったが、10年間の本計画で地域密着型特定施設入居者介護の方法に限定することが妥当と判断できないため
10	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52	4つ目○、 高額な家賃の支払いができないという実態は、何かデータがあるのか。既存のホームに入居している市民もいる。市民全員が入居できないわけではない。 有料老人ホームに入居する＝高額な家賃が支払える裕福な人ではない。 また共同住宅での分散型や民家改造型は高額な家賃が発生しないということが言い切れるのか。	委員	対応：修正する。 理由：高齢者の調査では、家賃として支払える額で5万円以内という方が最も多く、老人ホームの費用と大きくかい離があることから記載した。 ただし、4つ目○で示したい意図は、高齢者の住宅にも空き家等の既存住宅ストックを活用する取組みを推進し、合わせて地域に不足するサービス拠点の誘導を図ることで、サービス付き高齢者向け住宅の分散型が主旨ではないため
11	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52	4つ目○、 人口減少に向かう中で既存の古いアパートを高齢者向けに転換していくうえで、地域密着型特定施設入居者生活介護の指定を条件にすることも、既存ストックの転換に制約を設けることにつながらないのか。	委員	対応：修正する。 理由：上述と同様
12	取組み5-3： 地域包括ケアの基礎となる住宅の改修・整備	52	4つ目の○ 「地域包括ケアを推進するためのサービスを併設」とありますが、具体例を記載した方が分かりやすいのでは。	東京都福祉保健局	対応：修正する。 理由：上述と同様。また地域包括ケアを推進する視点は2つ目○に記載。
13	取組み6-2： 多様な人・多世代が集う空間や機会の創出支援	53	3世代が住みあうための計画が盛り込まれており、様々なメニューが盛り込まれていることは喜ばしいことだが、さらに血縁・地縁でなくても趣味縁の人々が住み合うような「コレクティブハウス」の視点も入れてほしい。	市民	対応：修正する。 理由：ご意見を踏まえ、取組み6-2に3つ目○を追記。 →「多様で多世代の住民がバランス良く暮らすまちとなるように、例えばコレクティブハウスやシェアハウスなどの多世代居住やコミュニティを重視する住宅も含め多様な住宅が市内に散在し、様々な住まい方が選択できるよう、支援の検討をします。」

番号	項目	頁	ご意見の要旨	意見者	市の対応
14	取組み6-2： 多様な人・多世代が集う空間や機会の創出支援	53	無縁社会という言葉が話題になり、高齢者の孤独死や孤立した母親が育児をストレスに感じて引き起こす乳幼児の虐待に心を痛めている。この6-2の取組みが急務であり、この取組みに関して、シェアハウス、コレクティブハウス、コーポラティブハウスなどの共同生活を取入れた住まい方が有効だと感じている。これらの住宅建設や改築に対する資金を支援し、普及を図ってほしい。	市民	対応：上述と同様
15	取組み6-3： 障害者や外国人など、多様な人が住まえる地域の支援	54	障害者（とくに知的、精神）に対する住宅の考え方が全体的に少ない。地域移行（集合住宅への居住）やグループホーム設置の理解等が市の障害者計画にも書かれているので、示したほうがよいのではないかと。また今後は知的、精神の方の住まいが課題となっていることからむしろ身体障害者のグラフより、知的、精神の方のグラフがあったほうがよいのではないかと。	委員	対応：修正する。 理由：ご意見を踏まえ、6-3に2つ目○を追記。また、課題等に、知的及び精神の障害者のグラフも追記。 →「○障害者が、自ら生活する場や必要なサービスを選択し、身近な地域で暮らせるよう、地域移行*に向けたグループホーム*等を含めた住宅・住環境の整備、地域住民の理解・交流が推進するよう図ります。」
16	(仮称)住環境マネジメント組織	77	この組織が自発的に設立され、市内全域に広まっていくイメージが湧かない。このような組織を運営していくことに積極的になる市民がどれだけ多くいるのか疑問。とはいえ、この組織がないとアクションプランが乏しくなるので、どこかでモデルケースを立ち上げるようなことを記載できないか。	委員	対応：修正する。 理由：ご指摘を踏まえ、検討する旨を追記。 →「(仮称)住環境マネジメント組織の普及・促進にあたっては、市内全域で普及していくことは容易ではないことから、例えば空き家協議会等と地域との情報の収集や提供を通じることで、自主的に取り組む団体又は高齢化の進行が早い地域等をモデルケースとして重点的に取り組む支援策について、検討します。」
17	(仮称)空き家(住宅ストック)活用推進協議会による空き家対策の推進	78	(仮称)住環境マネジメント組織との情報収集や提供により、協議会の連携をとっていきようだが、全ての地域で一斉にスタートはできないと思うので、市としても重点地域を見据えて進めて欲しい。	市民	対応：上述と同様
18		78	空き家調査については、調査段階から市民参画をし、調査活動を通じて市と市民がさらに育ちあうことができる組み立てとしてほしい。	市民	対応：素案のままとする。 理由：素案の表現で示しているため 空き家の実態把握については、市民を含めた自治会等の地域活動団体からの情報収集等を基として行っていくことを想定

番号	項目	頁	ご意見の要旨	意見者	市の対応
19	(仮称) 空き家(住宅ストック)活用推進協議会による空き家対策の推進	78	空き家に残った家財の整理など、所有者にとって大変な労力を伴うこともあり、空き家活用の支障となるおそれがある。そのため、家財整理に関する所有者への支援など、もう少し具体的に協議会で話し合うテーマを出して欲しい。	市民	対応：素案のままとする。 理由：空き家対策を推進するうえで、市が支援すべき取組みか否かの整理について、検討する必要があるため。 (基本的に所有者が自ら適正に管理する責任がある)
20	(仮称) 空き家(住宅ストック)活用推進協議会による空き家対策の推進	78	マッチング事業では、NPO等と記載されているが、そのような団体を育てる支援は盛り込まれるのか、検討願う。	市民	対応：修正する。 理由：ここに示すNPOへの支援は明示していないが、支援の考えはあるため、追記する。 また、マッチング事業に関わるNPO等のイメージがあいまいであったため、補足もした。 →「マッチング事業は他自治体で実施される空き家バンクの機能が必要となり、NPO等が空き家情報のHPによる発信やタイムリーな更新、利用者と所有者との連絡調整などを携わる運営主体となることが想定されます。運営主体となるNPO等の支援については、地域貢献活用モデル事業等の実施などにより運営の協力を図ってまいります。」
21	(仮称) 空き家(住宅ストック)活用推進協議会	79	この図で示すマッチング関係主体がイメージしにくいので、見る人に誤解を与えない表現としたほうがよいのではないかと。	委員	対応：修正する。 理由：ご指摘のとおり →イメージ図のマッチング関係主体を以下に。 「 マッチング関係主体 (空き家バンク機能の運営等)」
22	(仮称) 日野市居住支援協議会	80	イメージ図の福祉関係主体に社会福祉協議会を入れるべきではないかと。	委員	対応：修正する。 理由：市において主要な団体であるため。